

「CITE Japan 2011」を終えて

第5回化粧品産業技術展「CITE Japan 2011」が5月25～27日にパシフィコ横浜で開催された。3日間の登録者数は前回は754名上回る1万2743名、出展者も257社と、前回より55社増え、前回より規模が拡大した。次回は2013年5月15～17日に開催される予定だ。

今期も2ケタ成長目指す

原材料

エイチ・ホルスタイン

エイチ・ホルスタインは今回が初出展となった。

「約350件と、予想以上のお客様とコンタクトができた。1700部用意した製品カタログも全て配布できた」(加藤智彦セールス&マーケティング事業部マネージャー)



加藤氏

特に反響があったのは、展示会初日にTV番組で紹介された「フィットセルテックマルストメスティカ」だ。リンゴの稀少品種の幹細胞を人工培養し、リポソーム化したもの。肌の幹細胞に



栄養を与え、再生能力をサポートする。

「ヒアルケーシシステム」は3次元の網目構造を持つヒアルロン酸。皮膚上で分解されて初めてヒアルロン酸になり、皮膚に長時間留

まる。有効成分を保持し、分解時に放出するタイムリリース効果も発揮する。

「SLM2015」は稀少なラメラ層状のクリーム基材で、皮脂と同じ構造を持ち、皮脂の状態を乱すことなく保湿効果をもたらす。

新原料では「フィットセルテックアルガン」が好評だ。モロッコ産アルガンツリーの新芽から抽出した幹細胞

エキスが真皮幹細胞を賦活し、エイジングケアを促す。「展示会のフォロー」活動のため営業担当者を増員する予定。上期(2011年1～6月)は震災の影響で10%増を見込むが、毎年20%増で推移していた。通期では化粧品原料で20%増を目指す(加藤氏)

なお、8月よりドイツのCosmetochem社製品の取扱いを開始する。